

林土連・大阪協会が合同で安全パトロールを実施

今年も7月1日から「全国安全週間」が始まり、全国の会員企業の各職場で「新たな視点」で安全に関する取組の強化が図られたところです。林土連では7月10日に、大阪協会と合同で石川県白山市の会員企業の治山工事現場で安全パトロールを行いました。

石川県の名峰白山を源流部とする手取川の上流部には荒廃地が多く、荒廃溪流の一つ「湯ノ谷」では昭和56年から近畿中国森林管理局により民有林直轄治山事業が行われています。また同じく上流部の「大汝国有林」では平成27年5月に大規模な崩壊地が発生し、手取川が濁水して下流域に大きな影響が出たことから、石川森林管理署により土砂の発生源対策として、崩壊地の復旧対策が進められています。

今回の安全パトロールは、林土連の菊池専務と大阪林業土木協会の白淵事務局長が「湯の谷上流部溪間外工事」を請け負っている株式会社 風組（代表取締役社長 風 尚樹）の作業現場と、「大汝（中ノ川中流ホー16外）山腹工事」を請け負っている株式会社 山崎組（代表取締役社長 山崎貴文）の作業現場を訪ね、作業環境や労働安全への取組状況について確認し、責任者の皆さんと意見交換を行いました。

株式会社風組の受注工事は、コンクリートブロック堰堤工が主な工事内容であり、現在、現場に設置する堰堤用の大量のブロックづくりが盛んに行われており、炎天下での「熱中症」対策や、重いブロックを扱う重機を使った作業での安全対策などについて、風社長と山下利昭総務部長から説明をいただきました。

また、株式会社山崎組の受注している工事では、崩壊地への道路がないためヘリコプターによる航空緑化導入工と袋型石詰筋工が行われており、スキー場を利用したヘリポートにおいて、ヘリが運ぶ資材の準備・積込等が主な作業内容となっています。当日は天候不順な梅雨時期のためヘリコプターの運航は休止中でしたが、休憩施設において山本 靖専務と上野泰豊環境安全部長から崩壊地の状況や工事内容について説明を受け、現場代理人を務める奥 善明工事部長から現場の安全管理への取組について説明をいただきました。

林土連からは、熱中症予防対策や、墜落・転落事故、土石崩落事故、重機による事故の林土連会員3大重大事故の防止、更には支障木の伐倒事故防止、台風・豪雨時の作業中止判断基準の周知・徹底などについて要請をしました。

今回の安全パトロールでは、両社の労働安全に対する取組はたいへん徹底し

ているとの印象を受けました。特に、安全作業に向けて「危険箇所・危険行為の見える化」に取り組み、作業現場に潜む危険を具体的に写真パネルで示して事故防止を訴えたいへん優良な事例も見ることができました。

白山市には、この2社のほかに竹腰永井建設株式会社（代表取締役社長 小田 徹）、株式会社 慶伊組（代表取締役社長 谷端正宗）、みのり建設株式会社（代表取締役社長 谷口洋明）の3社の会員企業があり、道すがらそれぞれの会社を訪問し、労働安全の呼びかけをさせていただきました。



(株)風組の風 社長から工事概要を聴取



(株)風組へ安全指導を行う菊池専務



(株)山崎組へ安全指導を合同で実施



労働災害の「見える化」への取組、
右はパネルを作成した奥 工事部長



労働災害の「見える化」の例
(ヘリへの接近禁止)